

災害時の医療 介護を考える

松波総合病院で研修会

災害時の訪問医療や介護について考える研修会が、羽島郡笠松町田代の松波総合病院で開かれた。

羽島郡医師会が主催。県内や名古屋市で在宅医療クリニックを運営する医療法人



「BCPは作成よりも更新が重要」と話す市橋亮一理事長。羽島郡笠松町田代、松波総合病院

人かがやきの市橋亮一理事長が講演し、約120人が聴講した。

市橋理事長はクリニックでの取り組みとして、発災直後の行動指針をまとめた「アクションカード」を紹介。「自助・互助で手が離せない人は、自宅などでの活動を優先すること」などの記載があり「家族のことなど、個々で判断できないことをチームとして決めておく」と話した。事業継続計画(BCP)については「作成よりも更新が重要」と強調した。

(安井真由子)